

高尾山報

令和7年11月号

健やかな成長を願いながらお釈迦さまに祈りを届けます

高尾山中興開山六百五十年記念 高尾山秋季大祭

法の水茎

大正大学講師 高橋秀城

(161)

立冬を迎えて、冬の訪れを告げる木枯らしが吹き始め、北国からは初冠雪の便りが届くようになりまし。秋の夜長に満ちていた虫の音も遠ざかり、夕暮れが早まっていく「冬の短日」を実感するようになってきました。

白露も
時雨もいたく
もる山は
下葉のこらず
色づきにけり

『古今集』紀貫之(白露も時雨も漏れ落ちるといふ守山の地では、その水滴によつて木々の上葉から下葉まですっかり色づいていくよ) 日中の短さに心細さも感じますが、それは冬支度を始める合図でもあるのでしよう。晩秋から初冬にかけて降ったり止ん

だりする雨(時雨)や、水蒸気が冷えて白く輝く朝露(白露)を浴びながら、樹木の葉も少しずつ色づいていきます。

この「白露も」の歌は、近江国野洲郡にあった守山宿(現在の滋賀県守山市)付近で詠まれたものです。守山宿は、古くは東山道、後に江戸時代には中山道六十七番目の宿場町として栄えました。歌では、守山の「守る」に「漏る」が掛けられ、空から零れ落ちてくる時雨や白露の雫によつて、木々が鮮やかに染め上げられている光景が詠われています。宿場の賑わいに負けないくらい、華やかな秋景色が目につかびます。

○三十二月十日(糸)には「初めて美濃国に岐蘇の山道を開く」と記されています。時代は下つて、島崎藤村(一八七二〜一九四三)の「木曾路はすべて山の中である」「夜明け前」という小説の冒頭も思い起こされるように、古代から険しい山並が立ちはだかつていたのではありません。それは取りも直さず、東山道、中山道(木曾路)が豊かな自然に囲まれた土地であることも物語っています。

さらに歩を進めると、東山道の道筋、美濃国(岐阜県南部)と信濃国(長野県)との県境にある神坂峠(標高約一五九メートル)の山麓に「園原」という山里があります(長野県下伊那郡阿智村智里)。古来より歌枕の地として、多くの古典文学作品(漢詩や和歌、物語など)に詠い残されてきました。

帯木の
木末やいづく



白露の雫が花や木を鮮やかに染め上げる

おぼつか みな園原は 紅葉しにけり

『金葉集』源師賢

(帯木の梢はどこにあるのだろう。近づいてみると、園原の地は散りかかる木の葉で一面に紅葉していたよ)

「帯木」とは、園原の地にあつて、遠くからは見えるけれど、近寄ってみると姿が見えなくなるといふ伝説の木です。この歌では、秋霧の中から徐々に浮かび上がる紅葉が詠われているのでしようか。帯木の姿は見えないに会えないというもど

かしさと、思いがけず錦おりなす紅葉に包まれていたという感動が詠われているのでしよう。

この園原の土地をめぐる話は、次のような話が伝わっています。

昔、信州にある男がいました。京の都から妻となつた女性を伴つて国に戻つてきました。

その女性には、かつて言い寄る男が多くいて、その男達からの手紙がたくさん残されていました。夫には隠していました。夫は手紙を見つけた。そして「自分分は文字が読めない。息

真言宗智山派管長 総本山智積院化主 第七十三世 吉田宏哲大僧正親下晋山式

十月八日(水)

総本山智積院(京都市東山区)に於いて吉田宏哲親下が、真言宗智山派の管長と総本山智積院第七十三世化主に就任されたことを披露する、晋山式が厳粛に執り行われました。

吉田親下は大書院で「法流相承の儀」を行い、前化主の布施淨慧大僧正から、親座を受け継がれました。金堂で行われた晋山傳燈奉告法要では、真言宗各派の管長親下並びに成田山新勝寺の岸田御貫首、川崎大師平間寺の藤田御貫首と共に、当山佐藤貫首、また大勢の宗派関係者が見守る中、傳燈奉告文が奉読されました。

法要後には、ホテルグランヴィア京都において晋山祝賀会が行われ、盛会のうちに無事終了致しました。



吉田親下は輿を進められ入堂された



吉田親下を囲み記念撮影

子が戸隠の山寺にいたのから」と言うと、子どもを呼び寄せ、母の前で読ませました。母は慌てふためきます。

ところが、この息子はよく機転の利く子で、恋文を何でもない日常の手紙のように読み上げたので、夫の疑念は晴れて、夫婦仲はそのままとなりました。この継母はあまりに嬉しく思い、息子に手紙と和歌を送りま

信濃なる

木曾路に懸くる丸木橋

踏みみし時は危うかりしを

(信濃の木曾路に懸かっている丸木橋を渡ろうと踏んだときは危ないことでした(あなたが文(手紙)を読まれたときはハラハラしました))

息子からの返事には信濃なる

園原にこそ

宿らねど
みな箒木と
思ふばかりぞ

(信濃の園原に立ち寄ったわけではないけれど、すべてが箒木と思うばかりでしたよ(誰もが母親と思うだけのことです))

この話は、かの関子齋に似て、『梵網經』の教えにも合っています。まさに「すべての男性は我が父であり、すべての女性是我が母である」と説く心です。この感心な心を持った息子は、やがて父の家を継いだと伝え聞いています。

歌に見るように、園

原の「帯木」は「母親」にも通じるのでしようか。

子どもは目の前に現れた継母の心を察して、手紙の内容を読み替えました。その行いは、孝行者として名高い関子齋(紀元前五三六〜紀元前四八七)の姿や、父母への孝行を説く『梵網經』の教えにも適っていると語られています。

なお、弘法大師空海(七七四〜八三五)は、もし恵眼をもって

これを親すれば、一切の衆生はみな、これわが親なり。

(空海『教王経開題』(仏さまの眼差しから見れば、この世の生きとし生けるものは皆、自分の親である))

として、人間の父母を超えた「真理の眼」を解き明かされています。

植木静かならん

と思へども、
風やまず。

子孝せん

と思へども、
親待たず。

親待たず。

(木々が静かにしていようと風は止まない。子が孝養しようと思つても、親はいつまでも待つていない)

「帯木」と「母親」のようには、「紅葉」は「孝養」とも通じるのでしようか。錦秋に染まる山々や風に散りゆく落葉に親の心を感じつつ、今生かされていることへの感謝の念を覚えます。

(栃木北部教区普濟寺)



佐藤貫首と共に歩むお稚児さん達



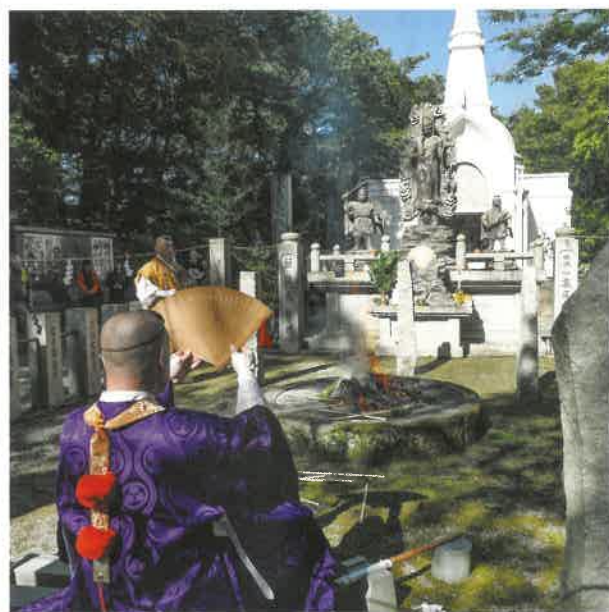
職衆の高尾山法類寺院より散華が撒かれた



健やかな成長を願いお加持を授かる



鼓笛隊の賑やかなマーチが稚児行列を先導



有喜苑において柴燈大護摩供厳修



一年間を共にした舞扇を火中に投じて供養する八王子芸妓衆

高尾山中興開山六百五十年記念法要 高尾山秋季大祭奉修

十月十七日(金)



中興俊源大徳の頂相を前に熱祷する佐藤貫首

本年は俊源大徳による高尾山中興開山から六百五十年を迎える節目の年にあたります。この勝縁にあたり奉修された高尾山秋季大祭は、子どもたちの健やかな成長を願い盛大に執り行われました。慶賛会・八王子芸妓衆のパレードは山麓より始まり、多くの参拝者に見守られながらケール・清流駅前まで賑わいを見せ、澄みわたる秋空の下、華やかに包まれました。

その後一行は山上の十二丁目茶屋にて、華やかな衣装に身を包んだ横川幼稚園のお稚児さんや鼓笛隊、そして高尾山御詠歌講の皆様と合流して大本堂までパレードは続き、途中の有喜苑ではお稚児さん達がお釈迦様の誕生仏に甘茶をかけて健やかな成長を祈り、また四天王門脇の大小天狗像前では、芸妓衆達が長年お稽古を共にした舞扇を火に投じてお焚き上げる舞扇供養が厳かに執り行われました。また、職衆を務める高尾山法類会寺院より参道に記念の散華が撒かれました。

大本堂では中興開山六百五十年記念法要を奉修し、俊源大徳への報恩謝徳の祈りが凝らされました。



大本堂で御詠歌を奉詠



侍装束に身を固めた高尾山慶賛会の皆様

観音菩薩の宗教

95

国際教養大学特任教授 金岡秀郎

如意輪観音(その33)―仏教の性別観

平等思想はブッダの思想の根幹であった。生まれによる差別が神学的にも社会的にも強固に定められていたインド社会において、ブッダは四姓平等を説いた。四姓とはバラモン教の司祭、王公階級、商人、隷属民の4階級を指し、身分と職業が結びついてさらに多くの階級に分かれていた。すなわちカースト(caste)制度である。ブッダは仏教団のサンガに入った者たちに対してはそれ以前のカーストを尋ねず、出自に関する差別を排して平等主義を徹底した。ただし、修行年次の早い者は法臘・法齡・戒臘が長いとして、短いものは彼らに礼を尽さねばならなかった。ブッダのこの

『維摩経』に展開した男女の入れ替わるエピソードであった(観音菩薩の宗教⑨⑩)。これらに加えて以下では『法華経』『提婆達多品』の変成男子の思想を見てみたい。すでに見たように、部派仏教時代に主張された「五障」説によれば、女性は仏になれないとされた(『観音菩薩の宗教』⑨)。多くの部派の所説によれば、女性は男性に生まれ変わることによって初めて成仏できるとされていた。

『法華経』はこうした

「差別的規定」に異を唱え、劇的な描写と予想外の展開によって女性成仏の可能性を説いた。ここで登場するのは、沙迦羅龍王(Sagara naga-rāja)の八歳の娘で龍女(Naga kanya)と称される少女である。彼女は部派の基準によれば、「トリプル・マイナス条件」(植木雅俊『サンスクリット版縮訳―法華経』角川ソフィア文庫、二〇一八年

二二〇頁)によって成仏の可能性がなかった。トリプルとは、龍女が「八歳」、「畜身」、「女性」であったことである。「バラモン教徒の規範を定めた『ナーラダ法典』で八歳以下は、胎児扱いであった(同)」、龍は畜生であり、女性であり、いずれも成仏はできないとされた。しかし『法華経』は以下のごとく、龍女が完全なる覚りを得ることができると主張した。前回同様、サンスクリット語からの植木雅俊の和訳を引用する。

「提婆達多品」によれば、文殊菩薩(Maṇjuśrī)は大海の中で「白蓮華のように最も勝れた正しい教え(Saddharma-puṇḍarīka-sūtra)」すなわち『法華経』を説いていた。それを聞いた智積菩薩(Uttarakara)は文殊菩薩に尋ねた。「この経は深遠で、微妙であり、この経に匹敵する経典は決して他にありません。この経を理解し、この上なく

正しく完全な覚りを覚ることのできる衆生がいるのでしょうか」(植木、前掲書、二二四頁)。「これに対し文殊菩薩は明言する。『サーガラ龍女の娘(龍女)がいるのだ。その娘は八歳で、大いなる智慧をそなえ、研ぎ澄まされた能力を持ち、智に基づいた身体と言葉と心の行ない(身口意の三業)を具えており」、「覚りを求める心において不退転であり、広大なる誓願を持ち、一切衆生に対して自分のことのように愛情を抱いており、徳を欠いていることはないのだ。(中略)そのサーガラ龍女の娘は、正しく完全な覚りを得ることができると」(同、二二四―二二五頁)と。これを聞いた智積菩薩は驚いて、ブッダが長きに亘り精進して覚りを得たのに比べ、「サーガラ龍女の娘が、一瞬のうちに覚りを得ることができるということを、誰が信ずるのでしょうか?」と疑義を呈した。

智積菩薩のこの発言は尤もであり、現代の『法華経』の読誦者も同様ではなからうか。

覚り(悟り bodhi)にいたる方法には漸悟と頓悟があるとされる。漸悟とは行者が初步的な修行・学習から入り、段階的に階梯(Krama)を経て、覚りに達する方法をいう。チベットやモンゴルの学問寺では、年次や学力に応じて教科書や修行法が準備されている。一方、頓悟はそうした階梯を

経ず、たちどころに悟ることを指す。唐代の慧能は文字も読めなかったが、米搗きをしていて頓悟したという。

両者の対比が鮮明に示された実例には、西暦七九四年、チベットにおいてティソン・デツェン王の御前で行われたサムイェの宗論と呼ばれた討論会がある。当時のチベットには頓悟を重んじる漢仏教の禅と、漸悟を実践するインド仏教との対立があった。この宗論は、チ

『平家納経』『提婆達多品』に描かれた龍女。手に宝を持ち上方の釈迦如来に捧げんとする。蔵書神社蔵。1164年
https://ja.wikipedia.org/wiki/フアンリ:《平家納経_提婆達多品》1164年、中安時代、蔵書神社、広島.jpg



ベット仏教の正統を決定するため、唐の摩訶衍とインドのカマラシーラに討論させたものである。その結果、漸悟派が勝ちインド・ネパール仏教がチベットの国教として採用され、頓悟派は公式には表舞

台から姿を消したとされる。仏道を持ち出すまでもなく、子供の学習やスポーツの鍛練など、初步からの階梯を経ずしていきなり最高点に到達するとは考えがたい。龍女が「一瞬のうちに覚りを得る」ことに智積が疑問を持ったのも無理はない。しかも龍女にはトリプルのハンディがある。「提婆達多品」は続けて述べる。「その時、サーガラ龍女の娘が現れ、世尊の両足を頭におしただいて挨拶し、「隅に立つて次の詩を述べた。『私にとつて完全なる覚りは思うがまま、その際、私の証人は如来であります』」(同、二二六頁)。これを聞いて小乗仏教一部派の世界観を代表するシャリープトラ(Saripuṭṭha、舍利子・舍利弗)は難詰した。舍利子は『般若心経』などでは大乘の空の聴聞者・理解者として現れるが、ここでは小乗的女性観に固執する保守派として登場する。

シャリープトラは龍女に向かつて言う。「女性は、努力精進をゆるがせにしないで、幾百、幾千もの多くの劫にわたつて諸々の善行をなし、六種類の完成を成就したとしても、今日までブッダの位の達したことはないのだ」(同、二二六頁)。彼の論拠は女性の「五障」である。しかし龍女はかかる論難を次のように劇的に覆した。龍女は「その価値が三千大千世界に匹敵する一つの宝石を所有していて、それをブッダに差し上げた。するとブッダがその宝石を受け取るよりも早く、龍女の女性の身体は突然、男性の身体に変じて覚りを得たとされる。これを変成男子という。『提婆達多品』によれば、龍女は「一切世間の人々と、長老シャリープトラの眼の前で、女性の性器がなくなり、男性の性器が現れ、(中略)南方のヴィマラー(無垢)という世界に行き、(中略)完全な覚り

を開いたとある(二二七頁)。ここから読み取れるのは、性別が絶対的ではなく非固定的ということである。『維摩経』が性の空性・相対性を述べたのと同様、「提婆達多品」も性別が自由に変ずることが説かれている。ただし、「提婆達多品」においても、女性が女性のままで成仏できるとはしていない。これはブッダの平等思想から見れば、まだ不十分であろう。その理由として植木雅俊は女性を極端に蔑視するインドの制約の中で、変成男子は「女人成仏を明かすための妥協的表現」であり、「小乗仏教徒を説得する手段」として説かれたとする(植木雅俊『差別の超克』講談社学術文庫、二五九頁)。とはいえ、『維摩経』の所説や『法華経』の変成男子が、大乘仏教圏の女性の活躍や、如意輪観音菩薩の女性的展開の根拠になったことはまちがいない。

大自然の中で己をみつめ、心を磨く

第百二十五回 信徒峰中修行会

十月十一日(土)～十二日(日)



大塚知明僧正による講演

高尾山全体を修行道場とする「第百二十五回 高尾山信徒峰中修行会」が約三十名の参加をもつて開催されました。

山麓の不動院を出立した先達並びに修行者の一行は、しとしと雨の降る中、琵琶滝にて滝行を修し、琵琶滝路を登り十一丁目茶屋を経て蛇滝へと下り、再び登山して、高尾山を中興された俊源大徳が御本尊飯縄大権現様を感得されたと伝わる炊谷において、法衆を厳かにお勤めいたしました。

翌日未明、宿坊を出発した一行は、闇に包まれた山道を練行し、夜明け前の静寂の中で御護摩修行に参列されました。朝食後には吉野町上市・真言宗醍醐派・大師山寺御住職の大塚知明僧正による「当山派修験道の教え」と題した講演を拝聴し、修験道の心について学ばれました。

その後有喜苑において、佐藤貫首大祇師のもと柴燈大護摩供が厳修され、修行者の皆様も共に祈りを捧げられました。



大塚僧正を囲む修行参加者

深夜の神変堂を拝す



有喜苑での柴燈大護摩供

琵琶滝で水行を修す



高尾山内八十八大師巡拝

十月三日(金)

恒例の高尾山内八十八大師巡りが爽やかな秋風に包まれる中執り行われ、総勢三十八名の方が参加して高尾山中を巡拝し、お大師様(弘法大師)との御縁を深めました。

巡拝は先達の僧侶とともに、山麓の不動院から蛇滝水行道場を経由して大本堂まで徒歩練行を行い、急峻な山道では「慚愧懺悔 六根清浄」と掛念をお唱えしながら登り、道中で各お大師様に法衆をお勤めしました。

薬王院では大本堂にて御護摩修行に参列の後、精進料理をいただきながら心身を整え、引き続き一号路を下りながら道中の各お大師様を巡拝し、不動院へと向かいました。不動院到着後には、今回の巡拝の成満を御本尊様に奉告する献灯式が厳かに執り行われ、参加者一人ひとりが感謝を灯火に託し祈りを捧げられました。



山内各所のお大師様を拝す



巡拝に参加された皆様

祈願祭では、大山阿夫利神社、目黒宮司齋主のもと、参列の皆で祝詞の大祓詞を奏上し、僧侶・神職による神仏習合の祈りの中、国土安穩、災害復興、世界平和を静かに祈る一時となりました。

大山阿夫利神社と北口本宮富士浅間神社、高尾山薬王院の三社寺は、大山阿夫利神社にて、関係者約三十名の参列のもと「三社寺合同全国災害復興祈願祭」を行いました。

この法要は、東日本大震災の慰霊祭を合同で行ったことを契機として、今では様々な災害からの復興を祈るため、一年毎に三社寺の輪番で行われております。また本年は、戦後八十年の節目を迎えるにあたり、世界の恒久平和を併せてご祈念申し上げます。



三社寺合同 全国災害復興祈願祭

十月九日(木)

高尾山年代記

明治大学博物館 外山 徹

71

二十世岳純6 『八王子名勝志』その2

引き続き『八王子名勝志』から山内の様子を見てゆきたい。同書は八王子宿から高尾山に至る第三巻の後半と、第四巻の前半に近似した高尾山の記事が重複する構成となっているが、記述から嘉永二年(二八四九)の成立が推測される後者は、安政四年(二八五七)頃に執筆された前者の草稿と考えられている。今号では成立の早い四巻を読み進めつつ、適宜、三巻で増補された記事を付け加える。なお、挿絵は三巻に収録されている。

古滝

表参道(号路)入口周辺に次いで琵琶滝に言及した後、記述は表参道に戻る。「一の鳥居よりわず

か三、四町(一町＝約一〇九メートル)登り、左の方にあり。高き丈余にして至つて清冷なり」として「古滝」の記述がある。一号路の途次、沢筋を離れ右手へ急坂となる屈曲点に位置する岩壁にわずかな湿り気があるが、それが古滝の名残である。『武蔵名勝図会』(二八二〇)は「水路の便よからぬゆえ」清滝が開削されたとし、さしずめ新たな清滝に対する呼称とも取れるが、挿絵にはそれなりの水量が描かれ、「丈余(約三メートル)」という高さの記載からすると、落水する様子が視認されていたということだろう。季節によつては水量の回復があつたのかもしれない。挿絵の川筋は滝をその

まま遡上するが、現在は岩盤の左方に谷筋があり、やや奥まったところに砂防ダムが築かれ、地形は大きく変わっている。注目すべきは、さほど広いとは思えない滝の脇に小屋掛けがされている点である。この場所には大正頃の「茶亭旅館」に休憩所の営業が確認でき、幕末の当時は茶屋であつたか、あるいは琵琶滝同様垢離小屋であつたかは不明だが、涼やかな滝の脇に参詣者が足を休める場のあつたことになる。

金毘羅物見台

続く「七曲」は「古滝より上の方、金毘羅物見台までの間を言える字なり。実に羊腸曲折して巖さかしく歩み難き所」と説明



古滝

滝の脇に小屋掛けが見える(『八王子名勝志』 国立国会図書館デジタルコレクションから)



古滝の跡地(1号路)

其四 金毘羅物見台



金比羅台の景観(『八王子名勝志』 国立国会図書館デジタルコレクションから)

殿となつてはいるが、挿絵では覆屋だらうか、切妻屋根の建物に「金ヒラ」とある。「旗棹」を地名とし、近辺の松が「義経物見の松」と呼ばれるのは、この地名からの牽強付会と記される。金比羅台について印象的なのは、岩盤が露出し松の叢生する景観である。今日では鬱蒼とした山林に覆われており景観は大きく変わっている。金比羅台は「物見台」と呼ばれ、茶店があつた。東方へ延びる尾根の突端からは北方から南西方までの眺望があり、鎌倉末から室町期にかけて多摩郡西部で度々合戦のあつたことを考えると、偵察に格好の場所であつただろう。挿絵に見える茶屋は二棟に分

かれ、縁台の置かれている様子が見える。先の一覽表には見晴亭の名があり、少なくとも大正期までは茶屋が存続していた。三巻の一言で祈願が叶うと未確認である。金比羅台へは麓の落合の集落から直登する参道があり、明治維新の神仏分離の折に金比羅台を金比羅社の独立した社地としたならば、地蔵は他所へ移設せざるを得なかつただろう。

浄土院を越えて

塔頭の浄土院を経て、記述は石祠の浅間社に続く。『小田原記』異本の記事として戦国時代の高尾山への富士浅間権現勧請を述べている。『風土記稿』の記事からはリフト山上駅からケーブル高尾山駅の辺りに存在したと推測されるが、現在地は不明である。一九二七年にケーブルカーが開業して以来、一号路の様相には大きな変化があつた。「二本杉」は、現在の蛸

杉を江戸時代はこう呼んでいた。「妙見松」は腐朽して存在しないとあるが、前代の地誌にあつた妙見社の記載もない。「御加持水」は木の空ろに湧く水ということ、『名勝図会』に言う「薬師の御手洗水」のことと考えられるが、昭和の『高尾山誌』(一九二七)が記すケーブル高尾山駅と十二丁目茶屋との間にある「めぐすりの木」とは位置が異なる。三巻ではブナとするが、葉効のあるメグスリノキの誤りか。高尾山内のハイライトシーンの一つ、大杉並木は、四巻では「大杉」の地名を記すのみだが、三巻に至つて「二本杉」と見所に立項される。本数はもつとあるはずだが、「十」には最大数という意味がある。《参考文献》加藤典子「解題」(『八王子名勝志』) 八王子市教育委員会、二〇一五

おことわり 本連載では史料の引用について、適宜、読みやすく原文に手を加えています。

支駐歩二海光寺講法要

十月十九日(日)

有喜苑奥に建立されている、支那駐屯歩兵第二連隊慰霊顕彰碑にて、慰霊法要が執り行われました。

この部隊は中国の天津の海光寺に拠点を置いたことから、海光寺部隊とも呼ばれていました。

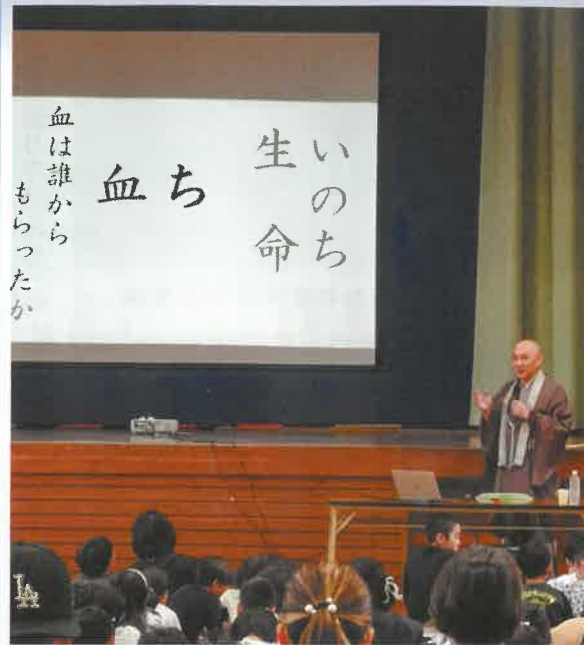
この碑が太平洋戦争で様々な作戦に参加した兵士の慰霊、また世界平和を願って昭和五十五年に建立されて以降、旧隊員やその遺族が「支駐歩二海光寺講」として毎年参列されております。



慰霊顕彰碑前にて

八王子市立長房小学校 当山貫首講演

十月十一日(土)



長房小学校において「キャリア教育講演会」が行われ、佐藤貫首による講演が行われ、小学生とその保護者へ「命の尊さについて」をテーマとしお話されました。

中興俊源大徳忌法要厳修

十月四日(土)



第45回結集 高尾山大会 縁 燈 火



真言宗各派の青年僧侶が参加された



佐藤貫首による記念講演



火を渡る智山青年連合会の原祥壽会長



燃え上がる法縁の炎

全真言宗青年連盟第四十五回結集
高尾山大会
九月二十九日(月)～三十日(火)

全真言宗青年連盟主催による「第四十五回結集高尾山大会」が、「法縁燈火」をテーマに二日間にわたり開催されました。

真言宗長者・高野山真言宗管長 長谷部真道親下、真言宗智山派管長 吉田宏哲親下、大本山隨心院 門跡龜谷英央親下、真言宗智山派別格本山高幡山 金剛寺 杉田純一御貫主をはじめ、ご来賓の皆様や全国各地から集まった青年僧侶の皆様など、およそ三百五十名が高尾山に集いました。

初日の開会式では、主催者を代表して真言宗豊山派の門屋昭譽理事長が挨拶を行い、続いて担当会派を代表して智山青年連合会 原祥壽会長が挨拶されました。その後、長谷部親下・吉田親下より御垂示を賜り、一同深く拝聴致しました。

記念講演では、当山佐藤貫首による「靈氣満山高尾山」修験道での学び、青年僧侶へ今伝えたい想いと題した講演が行われ、高尾山の成り立ちやご自身の修行を通じて感じられた信仰の大切さ、そして心を磨くことの意義について熱く語られました。

講演後の記念法会では、佐藤貫首を導師として全真言宗青年連盟の皆様が職衆を務められ、宗祖弘法大師の教えに思いを馳せながら、力強く祈りを凝らしました。

翌日には山麓の自動車祈禱殿広場において、智山青年連合会会長の原祥壽大祇師のもと、柴燈護摩供・火生三昧が厳かに執り行われました。

道場内に燃え上がる火焰はまさに今大会のテーマ「法縁燈火」を象徴するように輝き、今回の大会を通じて深められた法縁が浄火となって立ち昇りました。参加者一同は心をひとつに祈りを重ね、清らかな浄火を渡りながら、仏法の尊さと世の安寧を願う尊いひと時を過ごしました。

上洛雑感(6)

冬遊寂光院

京都大原寂光院

聖徳太子發誓朗

建禮門院隱活慘

平家一門菩提養

厚木市 荒井 一雄
うつし世の
淋しきこにきわまりぬ
寂光院のくけむる庭
(吉井 勇)

冬、寂光院に遊ぶ

京都大原寂光院は聖徳太子様が
父上・用明天皇の菩提を
弔ふために発願・建立し

建礼門院(平清盛公の息女・徳子)は
壇ノ浦合戦後この寺に住持・隠棲し、
夫の高倉天皇や子息・安徳天皇を
はじめ平家一族の追善菩提を弔ふ

秋は楽しい。沢をわたる風は涼しいし、山の食いもんは秋が一番美味い。オレはタア助を誘って、アケビや栗の実を探す。道ばたには彼岸花が咲いて、人間の声がする。

「近頃、人が増えたなあ」「だよな、ポン吉。中には迷惑な人間もいるよな」

タア助の言う通りだ。この山は、穴場のハイキングコースとして有名だ。おかげで、大勢の人間がやってくる。

ほとんどの人間は、タヌキを無視するけど、中には追いかけてきたり、木の実や石を投げる者もいる。写真を撮るのはいいけど、通せんぼは止めてほしい。弁当やオヤツを置いてゆくのも困る。初めは嬉しかった。美味い物が食えるから。でも困るんだ。カラスが寄っ

おはなし散歩道 かあちゃんの花

町田市 大澤桃代

てくるし、キツネも虫もくるし、山が汚れる。ハンバーガーを知ったのは、人間が残していった包みからだ。

「ポン吉、いい匂いがする」

タア助が言った。それは山道から漂ってきた。オレたちは匂いに向かって走った。けど、カラスのヤツらが突いた後で、包み紙が残ってなかった。

「みんな食ってやったぜ」

空からヤツらが、

「タヌキは、ハンバーガー食ったことないだろ」と、笑った。

タア助と包みをかいだ。パンと肉の匂いだった。すぐに美味いとわかった。タア助と別れて、洞穴に帰った。かあちゃんが待ってた。タア助はどうに独り暮らしだ。

「かあちゃん。オレ、ハン

バーガーが食いたい」

オレは甘えた。かあちゃんはハンバーガーを知っていた。やっぱりカラスが突くのを見たのだ。二度でいい、食いたいよ」

オレはねだる。何回も。「しょうがないねえ。明日まで待ちな」

かあちゃんが、言った。明日、山を下り、町で探してくれという。

目が覚めると、かあちゃんはいなかった。町へ出るには、広い道路を渡る。車は危ない。だから、車の少ない朝早くに出かけたんだらう。

——車はおつかねえ。

タヌキ仲間と言う。タア助のかあちゃんは車にやられて死んだし。

オレは洞穴の入口で待っていた。朝日が昇り、辺りが白み始めた。

早起きしたオレは、いつしか、まじろんでいた。

「ポン吉、ポン吉」

と、呼ぶ声で目が覚めた。

——ハンバーガーは？

「ポン吉！ 起きろ！」

背中を蹴られて、オレはようやく目が覚めた。オレたちは、あの広い道路へ向かっていった。タア助は走りながら、オレのかあちゃんが車にぶつかった、と言う。

かあちゃんは、道端に転がっていた。

と、一匹のタヌキが叫ぶ。このタヌキが、ずっとかあちゃんの傍にいてくれたのだ。道端の彼岸花の中で、うなっていたのを見つけたのだ。そこに早起きのタア助が通りかかった。

かあちゃんはオレの名を呼んだ。オレは口元に耳を当てた。

「……ポン吉、ごめん」

それから、横を向いてハンバーガーとつぶやいた。見ると、草の中に包み紙があつて、カラスたちが突いていた。

「……道路はおつか



ねえ。渡っちゃいけねえ」

それが、かあちゃんの最期の言葉になった。

オレが、ハンバーガーって、言わなかったら……

オレは泣いて泣いて、何日もそこにいた。

タア助もいつしよに。『オレのかあちゃんと同じだ』と、タア助はいう。

道端には彼岸花が咲いて、車の音がした。その日から、オレはひとりぼっちになったのだ。

(挿し絵・小出 茂) (完)



日常の空間で行われる柴燈大護摩供



商工会議所・榎崎博会頭による挨拶



八王子芸妓衆による「桑都の舞」



八王子消防記念会による勇壮な木遣を先頭に「桑都」パレードが行進する

桑都八王子の文化と魅力を体験
第12回 わくわくフェア
十月十八日(土) 主催・八王子商工会議所

八王子商工会議所が主催する秋の恒例行事「わくわくフェア」が、「未来へ紡ぐ伝統文化」をテーマに開催されました。

八王子市の伝統文化を身近に感じてもらうと、今回で五回目となる「桑都八王子パレード」が行われました。日本遺産「霊気満山 高尾山」より「桑都物語」を彩る構成文化財を代表し、八王子消防記念会の皆様の木遣を先頭に、高尾山の山伏、そして八王子芸妓衆が共に西放射線ユーロードを練り歩きました。その後普段は大勢の人が行き交う町中の、横山町公園特設ステージにおいて柴燈大護摩供を厳修し、参列された多くの方々と共に、世界平和や市民安全など諸願成就を御祈念申し上げました。

また、柴燈大護摩供の後には、八王子芸妓衆による「桑都の舞」が披露され、華やかな舞姿が観客や道行く人々を魅了しました。秋空の下に広がるその優雅な舞は、祭典に彩りを添える一時となりました。



花材：ツルウメモドキ・シマフトイ・千日紅

気温も一気に下がり、冬の気配を感じる季節となりました。

前回に続き、今回も実物の花材を使用した作品をご紹介します。主役は前回と同じくツルウメモドキです。花形は、竹製の花器「二重切」を

用い生花正風体です。二重切は、竹をくり抜き、上と下の二か所に花を生けられるという遊び心のある花器です。しつとりとした竹の質感と素朴な風合いが、季節の花々をいっそう引き立ててくれます。

上の重には、高い位置から枝垂れるツルウメモドキを生け、りんどうを添えて彩り豊かに仕上げました。下の重には千日紅を生け、全体をやさしい雰囲気にとめていきます。

花材の性質に合わせて花器を選び、取り合わせを考えながら作品をつくる時間は、まるでお出かけの前におめかしをするような、心躍るひとときです。

いけばなの心⑥8

華道教授 佐藤 宗明

高尾山の昆虫

ヒオドシチョウ

193



か弱いイメージで短命と思われがちの蝶ですが、成虫で一年生きる種がいるのをご存じでしょうか？それはヒオドシチョウ（緋緘蝶）で、三月頃から六月にかけてと九月から十一月にかけてよく見られ、そのまま成虫で越冬し、翌年まで生存します。

真冬でもポカポカした日には日光浴している光景に出会い、その姿に癒やされた体験を持つ人は多いと思います。

ヒオドシチョウはタテハチョウの仲間、鮮やかなオレンジ色に太めの黒い斑点が入り、後翅の縁は瑠璃色の小さな斑紋が並び綺麗です。

和名のヒオドシは戦国時代の武士が身に付けた武具である、赤い糸で刺繍された緋緘の鎧に由来されるとされ、本種はその名に恥じない佇まいをしています。とても目立つ表翅とは真逆に裏翅はとても地味で、これは樹皮や枯れ葉を思わせかムフラージュ効果があると思われれます。

長寿の蝶ながら、夏季に姿を見せない傾向がありその生態の解明と、最近個体数が減っているという情報も合わせて、気になる蝶になります。

(文松島 孝 撮影上村 雅昭)

一步一步煩惱滅除

百八の階段を昇り、悩みや煩い事を取り除きましょう

四十六段 素直な心で反省の日々

日々の生活の中で意図せず失敗し、周囲に迷惑を掛けしてしまうことがあります。そんな時こそ言い訳をせずに自らの誤りを認め、真摯に反省することが大切です。反省を通して原因を明らかにすることが、成長への一歩となるのです。

『高尾山健康登山の証』のお勧め

年間約三百万人の人々が訪れ、「世界一登山者の多い山」として知られている高尾山。登山者の皆様の励みになれば、との思いから平成十一年から健康登山を始め、今では約五万人の方々が参加されており、今では期限はございませんので、御自分のペースでお楽しみ下さい。

また、一冊に付き二十一回スタンプを押すページがあり、終了したことを満行と言います。満行されますと、健康登山者限定の記念品と交換できます。



帳面……………七百円
スタンプ……………百円

高尾山 季節散歩

和風月名
雪待月「ゆきまちづき」

十一月の別称として「霜月」がよく知られていますが、旧暦の十一月は霜ばかりでなく、雪も降り始める頃です。

雪には厄介な側面もある一方で、豊かな雪解け水をもたらし、翌年の豊作につながると考えられてきました。そのため、古来より雪は吉兆として待ち望まれる存在でもありました。

今月の風物詩
秋鮭

「鮭」という字のつくり「圭」を分解すると「十一」となり、十月から十一月にかけては、秋鮭が生まれ故郷の川を遡る季節。長い旅を終えて帰るその姿は、秋の風物詩の一つとして多くの人に親しまれています。

岩崎愛子さん新曲ヒット祈願

『高尾山健康登山の歌』

歌手の岩崎愛子さんが新曲『高尾山健康登山の歌』のヒット祈願のため、高尾山薬王院へご来山されました。

岩崎さんは日野市のご出身で、多摩地域を題材とした演歌や歌謡曲を数多く発表されております。今回の楽曲は、「高尾山の歌シリーズ」の最新作として、高尾山で健康登山を続ける方々を応援することを目的に制作されたものです。

佐藤貫首と面会された際には、「これからも多摩地域を盛り上げるために、たくさんのお曲を歌い続けていきたい」と述べられました。

なお、本曲のCDは薬王院御護摩受付所にてお取り扱いしております（税込千三百円）。ご興味のある方は、高尾山にお越しの際にぜひお求めください。





令和八年元旦、午前零時より高尾山では、元旦特別開帳大護摩供修行が厳修され、世界平和・万民豊楽、国土安穩、また御信徒皆様の諸願成就をご祈念申し上げます。

御信徒の皆様には元旦に参拝されて、大本堂で執り行われるこの修行に参加されることをお勧めしておりますが、御信徒様各位の都合により高尾山へ御来山頂けない方の為に、郵送にて御護摩札のお取り扱いを致しております。

元旦御護摩札のお申込みを御希望される方は、元旦御護摩係まで御連絡頂きますと、申込用紙をお送りいたします。同封されている返信用封筒に、元旦御護摩申込用紙を同封頂き、十二月十日までに必着するようにご投函頂きますようお願い申し上げます。

尚、元旦御護摩札の発送は、一月三日以降を予定しております。

元旦御護摩札 申し込み御案内

新春特別開帳大護摩供

申し込み締め切り
十二月十日必着

お問い合わせ先

電話 〇四二一六六六一二二五
FAX 〇四二一六六四二一九九
高尾山薬王院・元旦御護摩係まで

高尾山薬王院の御護摩札

交通安全
(ステッカー)
(車内用札)

高尾山
交通安全
高尾太郎殿

最大巾8.0×長35.5cm

(大) 10,000円
(中) 5,000円
(小) 3,000円

交通安全
(ステッカー)
(車内用札)

高尾山
交通安全
高尾太郎殿

最大巾8.5×長37.7cm

お護摩 3,000円以上

交通安全
(ステッカー)
(車内用札)

高尾山
交通安全
高尾太郎殿

最大巾8.5×長37.7cm

お護摩 5,000円以上

交通安全
(ステッカー)
(車内用札)

高尾山
交通安全
高尾太郎殿

最大巾9.5×長42.3cm

お護摩 10,000円以上

交通安全
(ステッカー)
(車内用札)

高尾山
交通安全
高尾太郎殿

最大巾12.0×長46.5cm

特別大護摩 30,000円以上

交通安全
(ステッカー)
(車内用札)

高尾山
交通安全
高尾太郎殿

最大巾12.0×長46.5cm

開帳大護摩 50,000円以上

交通安全
(ステッカー)
(車内用札)

高尾山
交通安全
高尾太郎殿

最大巾14.3×長60.5cm

特別開帳大護摩 100,000円以上

- (一) 内の略称をお書き下さい
- お護摩の願事
 - 併願(二願意)は一万円より受け賜ります。
 - 但し、五千円で家内安全と商売繁昌のみ併願とさせていただきます。
 - お護摩札には年令・生年月日等は入りません。
- 家内安全(家)
 - 商業繁昌(商)
 - 事業繁栄(事)
 - 交通安全(車内用札)
 - 交通安全(車外用札)
 - 交通安全(身)
 - 身の上安全(身)
 - 災難消除(災)
 - 厄除(厄)
 - 身体健全(体)
 - 当病平癒(病)
 - 開運(開)
 - 良縁成就(縁)
 - 安産成就(安)
 - 入学成就(入)
 - 心願成就(心)
 - 御札(札)
 - 奉納杉苗(杉)

星まつり祈禱のおすすめ

星まつりとは、毎年順を追って巡りくる九星にお祈りして、災厄を除き福運を招くご祈禱です。

高尾山では、冬至に星まつり特別大護摩供を厳修して、御信徒各位の諸願成就を祈念しております。



又、当山の星まつりの御札は飯縄大権現、薬師如来、不動明王の三尊を始め、殊に九星、十二宮、二十八宿等の諸々の曜星を網羅した星曼陀羅を内符として納めたお札で、御利益は誠に深重であります。

多くの御信徒の皆様にお申込みを賜わり、広大無辺のご加護に浴せられますようお願い致します。

※年齢は来年の数え年(来年の満年齢に二歳加える)ご祈禱料はお一人様千円。特別祈禱料は二千円以上となります。申し込み締め切りは十二月八日、冬至の祈禱終了後、お札を郵送致します。

祈禱申込希望の方はご連絡下さい。申込書や高尾山の御寶曆、振込用紙一式をお送り致します。

凶運	半吉運	大吉運	凶運	大吉運	半吉運	大吉運	半吉運	凶運
羅喉星	土曜星	水曜星	金曜星	日曜星	火曜星	計都星	月曜星	木曜星
此の星に当る人は運勢漸く象にして諸事慎まざれば災難あり家内他人に口舌事多しな病難に注意を要す信心堅固にして慎むべし	此の星に当る人は運勢漸く開く象にして諸事準備なさば花綻ぶが如くなれど怠らば災害事憂あり	此の星に当る人は幸運の象にして善業積めば目上の引立亦意外な利得あり口舌傷害などに注意すべし	此の星に当る人は運勢陰るの象にして黒き雲の為に清き月の光も隠る、如く何かと障りあり口舌争論傷害等用心すべし	此の星に当る人は盛運にして万事順調に運ぶ像なれども慢心すれば大吉反て凶となる信心して加護を得べし	此の星に当る人は疲労困憊の象にして災厄病難等に注意すべし信心して堅忍自重を要す	此の星に当る人は万事憂え多き象にして諸事思ふにまかせず至て心労多く損失離れ別病災などに悩む信仰厚ければ除災光明を得る	此の星に当る人は進展の象なれど過ぎたるはなお及ばざるが如しにして余り過ぎるは災いの基である信心怠らず精進すべし	此の星に当る人は除災招福の象にして万事好都合に運ぶなれど細心の注意を欠くと損失あり目上目下の意見を聞き性急を慎むべし
一白	二黒	三碧	四緑	五黄	六白	七赤	八白	九紫
令和8年生	令和7年生	令和6年生	令和5年生	令和4年生	令和3年生	令和2年生	令和元年生	平成30年生
1	2	3	4	5	6	7	8	9
平成29年生	平成28年生	平成27年生	平成26年生	平成25年生	平成24年生	平成23年生	平成22年生	平成21年生
10	11	12	13	14	15	16	17	18
平成20年生	平成19年生	平成18年生	平成17年生	平成16年生	平成15年生	平成14年生	平成13年生	平成12年生
19	20	21	22	23	24	25	26	27
平成11年生	平成10年生	平成9年生	平成8年生	平成7年生	平成6年生	平成5年生	平成4年生	平成3年生
28	29	30	31	32	33	34	35	36
平成2年生	昭和64年/平成元年生	昭和63年生	昭和62年生	昭和61年生	昭和60年生	昭和59年生	昭和58年生	昭和57年生
37	38	39	40	41	42	43	44	45
昭和56年生	昭和55年生	昭和54年生	昭和53年生	昭和52年生	昭和51年生	昭和50年生	昭和49年生	昭和48年生
46	47	48	49	50	51	52	53	54
昭和47年生	昭和46年生	昭和45年生	昭和44年生	昭和43年生	昭和42年生	昭和41年生	昭和40年生	昭和39年生
55	56	57	58	59	60	61	62	63
昭和38年生	昭和37年生	昭和36年生	昭和35年生	昭和34年生	昭和33年生	昭和32年生	昭和31年生	昭和30年生
64	65	66	67	68	69	70	71	72
昭和29年生	昭和28年生	昭和27年生	昭和26年生	昭和25年生	昭和24年生	昭和23年生	昭和22年生	昭和21年生
73	74	75	76	77	78	79	80	81
昭和20年生	昭和19年生	昭和18年生	昭和17年生	昭和16年生	昭和15年生	昭和14年生	昭和13年生	昭和12年生
82	83	84	85	86	87	88	89	90
昭和11年生	昭和10年生	昭和9年生	昭和8年生	昭和7年生	昭和6年生	昭和5年生	昭和4年生	昭和3年生
91	92	93	94	95	96	97	98	99
昭和2年生	大正15年生/昭和元年生	大正14年生	大正13年生	大正12年生	大正11年生	大正10年生	大正9年生	大正8年生
100	101	102	103	104	105	106	107	108



登山だより

十二月行事日程

一日〜七日

聖天秘供(聖天堂)

二日、十四日、二十六日

弁天秘供(御本社)

二日、十五日

御詠歌勉強会

六日

月例写経会

(十三時山麓不動院)

八日

釈尊成道会(仏舍利塔)

十三日

山内大掃除(すす払い)

十八日

おみかぎ

十九日

納札供養柴燈大護摩供
(十三時祈禱殿広場)

二十一日〜二十二日

星まつり祈禱会

二十一日 午後五時開白

二十二日 午前六時結願

二十一日

飯繩様御縁日

神徳報謝百味飲食供

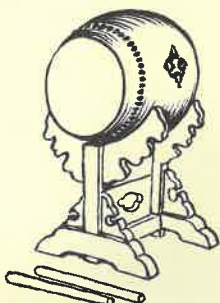
二十八日

奥之院開扉供養

(十時奥之院)

三十一日

大晦日・二年参り



毎日の
お護摩奉修時間

午前9時30分
// 11時00分

午後0時30分
// 2時00分
// 3時30分

ご講中・団体等
御相談下さい。

高尾山報助成金志納者 御芳名(順不同・敬称略)																												
板橋区	八王子市	塩谷郡	江東区	高崎市	北 区	中野区	杉並区	豊島区	練馬区	小金井市	国分寺市	日野市	多摩市	横浜市	さいたま市	行田市	大里郡	伊勢崎市	太田市	郡山市	いわき市	北 区	港区	北 区	板橋区	立川市		
大沼	田中	五月女	秋葉	中山	橋本	小杉	須藤	齊藤	神山	新井	代田	新井	太田	坪井	関根	渡辺	深田	山田	高野	美濃部	新藤	齋藤	内山	中川	野中	泉田	熊添	
キエ子	武	敏美	三重子	晃雄	操	和義	晶	功子	洋一郎	建司	勝子	伊佐雄	雄三	貴美子	光雄	三善	宏	節子	隆	さき子	良	孝弘	幸男	秀雄	兼造	徳昭	和則	圭子
八王子市	木更津市	児玉郡	飯能市	小平市	八王子市	相模原市	熊谷市	東松山市	太田市	桐生市	松本市	草加市	札幌市	港区	台東区	町田市	東久留米市	相模原市	柏市	さいたま市	熊谷市	秩父市	邑楽郡	前橋市	伊勢崎市			
倉石	山口	上原	大久保	関	高橋	一般財団法人	中山	根岸	市川	坂田	寺澤	後藤	阿部	鏡	川俣	梅原	吉岡	磯部	天野	洲崎	小谷野	江森	小田川	井上	井達	佐々木	永岡	
芳和	晴子	一夫	育男	道雄	正久	多重	波枝	智夫	裕基	貴也	和男	和一郎	好生	フミ子	良実	良郎	智代	司郎	久仁子	透	博史	静子	英之	光子	立司	好二	聡志	

発行所
東京都八王子市高尾町2177
大本山
高尾山薬王院
郵便番号 193-8686
電話(042)-661-1115(代)
FAX(042)-664-1199
発行人 犬山秀康
編集人 菅井倫浩
印刷 ヒラツカ印刷社
毎月1回1日発行
1部50円

下記のQRコード
から高尾山薬王院
のホームページに
アクセスできます

<https://www.takaosan.or.jp>

高尾山薬王院ホームページ



高尾山健康登山者一同	狭山市	羽生市	久喜市	さいたま市	足利市	横濱市	三鷹市	練馬区	杉並区	大田区	千代田区	立川市	相模原市	葛飾区	足立区	甲州市
粕谷 仁一郎	日野岡 保次	宮崎 幸子	中野 富貴枝	伊東 俊久	加藤 清美	花田 博子	小野 あき波	深谷 薫	三浦 みよ子	田中 良典	徳住 光則	鈴木 武	比留間 榮子	高田 勝弘	浅井 寛子	中村 孝子